

## 原著論文

## 文献レビューによる看護における援助

— ヴァージニア・ヘンダーソン「看護の基本となるもの」の基本的看護ケア・援助から考える —

古藤 みどり<sup>1)</sup>

## Ministration in nursing from a review of literature

— A consideration of basic nursing care and assistance based on Virginia Henderson's *Basic Principles of Nursing Care* —Midori KOTO<sup>1)</sup>

## 和文要旨：

本研究は、ヴァージニア・ヘンダーソンの著書「看護の基本となるもの」に、help・assistの用い方を分析することで、ヘンダーソンの考える「援助」を探索し、また援助のもつ意味とその働きかけについて検討することを目的とする。方法は、「看護の基本となるもの」と「看護論」よりhelp・assist、careの使用頻度を分析するとともに、「看護の基本となるもの」の中のhelp・assistの訳の変化について分析し、それぞれの年代においてhelp・assistの用例がどのような意味で使用されているかを調査した。その結果、helping・help・assistは身体や精神の行動への援助を表しており、自立に向けている内容は、helpingは58%、helpは9%、assistは見出せなかった。援助(help・assist)とcareの用い方は同一ではないことが示唆された。

## 英文要旨：

The purpose of this research is to investigate the meanings of “help” and “assist” in Virginia Henderson's *Basic Principles of Nursing Care* by analyzing her use of these terms, and then to consider the meanings that she assigns to them and their influence.

First, the frequency of use of “help”, “assist” and “care” in *Basic Principles of Nursing Care* and *The Nature of Nursing* is analyzed.

Next, changes in the meanings of “help” and “assist” as used in each age are investigated by analyzing the changes in the translations of these words in *Basic Principles of Nursing Care*. As a result, it was found that “helping”, “help”, and “assist” express ideas of “help and assistance” for daily physical or psychological activities. Contents relating to independence were found in 58% of cases for “helping” and 9% of cases for “help,” but no such relationship could be found for “assist,” suggesting that the usages “help/assist” and “care” are not identical.

Key words：ヴァージニア・ヘンダーソン (Virginia Henderson)、看護理論 (nursing theory)、援助 (help, assist)

\*群馬バース大学保健科学部看護学科

## I. はじめに

看護の専門性を表すことばのひとつとして、援助ということばが多く使用されている。しかし日本看護科学学会、「看護学術用語検討委員会答申書」(1995年)に集録されている看護実践の概念規定一覧、また看護学大辞典・第4版(メヂカルフレンド社,1997年)には、看護援助という用語の定義はされていない。この看護学大辞典において看護ケアとは、患者に安楽を与え、ニーズを満たすために、個別的に直接的に働きかけることをいうとある。援助について定義しているものは少ないように思われるが、援助とは病気や健康にかかわる実践活動<sup>1)</sup>であり、また患者の健康状態の肯定的変化をめざす看護実践<sup>2)</sup>であるといわれる。この援助という看護行為と看護ケアの患者に安楽を与え、ニーズを満たすために、という看護行為とは共に看護活動の中核的内容を表すことばであるが、両者の関係は曖昧に感じられる。

一方、ヴァージニア・ヘンダーソンは「看護の基本となるもの」、「看護論」において看護行為を表すことばとして援助ということばを用いている。「看護の基本となるもの」においては基本的看護の構成要素1患者の呼吸を助ける、2患者の飲食を助ける、から14項目に患者が……するのを助けるという援助が述べられており、これらは一般的に知られている。またこれらの著書において援助と看護ケアとを区別して書き表しているように読み取れる。

筆者は、ヘンダーソンの看護における研究の一環としてヘンダーソンの援助の概念を言語学的視点から探索し報告した<sup>3)</sup>。その結果文献検索では、ヘンダーソンの援助について言及した研究は見出せなかった。日本語の援助を表すことばに対応する原書の中の単語には、“help” “assist” “aid” “support” が使われていた。それらは援助する、助ける、支えるなどと訳されていた。また「看護の基本となるもの」「看護論」の原書中の援助を表す単語には、help, helping, helps, helpless, helped, helpful などの help 関連が最も多く用いられており共に help 関連使用頻度が80%をこえていた。そこで本研究では、ヘンダーソンの援助をヘンダーソンが看護独自の機能を述べている「看護の基本となるもの」の中の、先の研究で使用頻度が高かった help 関連と次に使用頻度が高かった assist, assistance, assisting, assists, などの assist 関連の用い方に限定したうえで明らかにすることを目的とした。この研究により、

看護の専門性を表すことばとして、ヘンダーソンの原著の中の“help” “assist” から看護の中における援助のもつ意味について考えたのでここに報告する。

## II. 目的

ヴァージニア・ヘンダーソンの著書「看護の基本となるもの」に“help” “assist” の用い方を分析することで、ヘンダーソンの考える「援助」を探索し、また援助のもつ意味について検討することを目的とする。

## III. 研究方法

### A. 研究期間

平成14年8月～平成15年1月

### B. データ収集方法

1. 「Basic Principles of Nursing Care (1997年)」、「The Nature of Nursing (1996年)」各々による看護における援助関連として“help” “assist”、看護におけるケア関連として“care”を抽出し、それぞれの使用頻度と、「看護の基本となるもの(1995年)」、「看護論(1992年)」における訳について調査した。なお、看護ケアが援助と訳されている可能性を考慮して、援助の探索において看護ケア関連の単語を抜き出し調べた。また、「看護の基本となるもの」における援助関連、ケア関連の使用頻度の信頼性を高めるために「看護の基本となるもの」における看護の概念が形成されていく過程の書といわれる「看護論」における援助関連、ケア関連の使用頻度を併せて調査した。

2. 「Basic Principles of Nursing Care (1997年)」の中の“help” “assist”に着眼し訳の変化(1961年、1973年、1995年)について調べて、それぞれの年代において“help” “assist”の用例(「看護の基本となるもの(1995年)」)がどのような意味で使用されているかを調査した。訳の変化については、初版から最近出版された訳本の中で訳に変化が見られる訳本を選択した。

### C. データ分析方法

データ分析手順

#### 1. 援助関連

a. 看護における援助を表す単語“helping” “help”

“assist” その他関連を「Basic Principles of Nursing Care」「The Nature of Nursing」より抜き出した。“helping” “help” “assist” その他関連の単語それぞれに分類して、各々意味のまとまりのある一文を区切って記録した。

b. 看護における援助を表す単語 “helping” “help” “assist” その他関連それぞれに対応する「看護の基本となるもの」「看護論」の援助を表す単語の訳の表現に着目して上記1と同様に各々意味のまとまりのある一文を区切って記録した。その際「看護の基本となるもの」においては、訳に変化が見られる訳本を選択した。

c. “helping” “help” “assist” その他関連それぞれに対応する訳本の各々意味のまとまりのある一文を読み直し、特徴(対象者の意思の尊重、自立)を留意し、類似したコードを含む場面を集め、比較をし、カテゴリー化をした。

## 2. 看護 care 関連

a. 看護におけるケアを表す単語 care 関連を「Basic Principles of Nursing Care」「The Nature of Nursing」より抜き出した。care 関連の単語の意味のまとまりのある一文を区切って記録した。

b. 看護におけるケアを表す単語 care 関連に対応する「看護の基本となるもの」「看護論」の care を表す単語の訳の意味に着目して上記1と同様に各々意味のまとまりのある一文を区切って記録した。

データの分析は、単純集計、各項目の総数に対する百分率を行った。

## IV. 結 果

A. 文献検索ではヴァージニア・ヘンダーソンの援助について言語学的視点から考察した論文は見出せな

かった。

B. “help” “assist” の使用頻度(表1)については、「看護の基本となるもの」「看護論」2つの結果を比較してみるために1つの表にまとめた。

1. 「Basic Principles of Nursing Care」の help 関連総数106であり、そのうち help は44(42%)、helping は43(40%)であった。assist 関連総数は14であり、そのうち assist は4(28.5%)、assistance は6(43%)であった。

2. 「The Nature of Nursing」の help 関連総数124であり、そのうち help は69(56%)、helping は29(23%)であった。assist 関連総数は11であり、そのうち assist は4(36.4%)、assistance は3(27.2%)であった。「Basic Principles of Nursing Care」「The Nature of Nursing」の中の援助を表す単語は、help 関連が最も多く共に80%を越えていた。

C. care の使用頻度(表2)と care 関連の訳(表3)

1. 「Basic Principles of Nursing Care」の care 関連総数は合計96であった。そのうち basic nursing care は23(24%)、nursing care は14(15%)、the care は10(10%)であった。また、self-care 8(8%)、giving care 6(6%)、physical care 6(6%)、その他 the aspects of care 3、caring for 2、hours of care 2、plan of care 2、basic care 2、nurse’s basis care 1、care for 1、new patterns of care 1等29(31%)であった。basic nursing care、nursing care、the care はそれぞれにおいて日本語の訳に共通の訳があった。basic nursing care23中「基本的看護ケア」22、「看護ケア」1。nursing care14中「看

表1 help・assist 使用頻度

1 「看護の基本となるもの(原書1997年)」			2 「看護論(原書1972年)」		
help 関連総数			help 関連総数		
help	44	[42]	help	69	[56]
helping	43	[40]	helping	29	[23]
その他	19	[18]	その他	26	[21]
合 計	106	[100]	合 計	124	[100]
assist 関連総数			assist 関連総数		
assist	4	[28.5]	assist	4	[36.4]
assistance	6	[43]	assistance	3	[27.2]
その他	4	[28.5]	その他	4	[36.4]
合 計	14	% [100]	合 計	11	% [100]

表2 care 使用頻度

1 「看護の基本となるもの (原書1997年)」			2 「看護論 (原書1972年)」		
basic nursing care	23	[24]	nursing care	22	[17]
nursing care	14	[15]	the care	14	[11]
the care	10	[10]	patient care	13	[10]
self-care	8	[8]	care for	6	[5]
giving care	6	[6]	medical care	6	[5]
physical care	6	[6]	basic nursing care	3	[2]
その他	29	[31]	その他	67	[50]
合計	96	% [100]	合計	131	% [100]

表3 care 関連の訳

1 「看護の基本となるもの (1995年)」			2 「看護論 (1972年)」		
basic nursing care (23)	「基本的看護ケア」 「看護ケア」	22 1	nursing care (22)	「看護ケア」 「看護」	18 4
nursing care (14)	「看護ケア」 「看護」 「訳なし」	11 1 2	the care (14)	「ケア」 「看護」 「訳なし」	12 1 1
the care (10)	「ケア」 「看護ケア」 「手当て」	8 1 1	patient care (13)	「患者ケア」 「患者のケア」 「訳なし」	11 1 1
			basic nursing care (3)	「基本的看護ケア」 「基本的な看護ケア」	2 1

表4 help 関連の訳の変化「看護の基本となるもの」

1 helping の訳の変化 総数 (43)			2 help の訳の変化 総数 (44)		
1995年	1973年	1961年	1995年	1973年	1961年
助ける 38	援助する 18	助ける 4	助ける 18	援助 15	援助 9
援助する 3	助ける 17	援助する 4	援助 15	助ける 5	手助け 5
手伝う 1	手(力)をかす 2	手(力)をかす 3	手助け 2	手助け 5	助ける 3
	手伝う 1	つとめる 3	手を下す 1	手をかしている 2	手をかしている 2
	与える 1	できるようにする 2	助言 1	助言 1	助言 1
	はからってあげる 1	手伝う 1	一助 1	力 1	力 1
	してあげる 1	与える 1	力 1	見守る 1	ニード 1
		はからってあげる 1	見守る 1	役立つ 1	まもる 1
		してあげる 1	役立つ 1	まもる 1	助長する 1
				助長する 1	助力する 1
				助力する 1	
訳なし 1	訳なし 2	訳なし 23	訳なし 3	訳なし 10	訳なし 19

「看護ケア」11、「看護」1、「訳なし」2。the care10中「ケア」8、「看護ケア」1、「手当て」1。

2. 「The Nature of Nursing」の原書の care 関連総数は合計131であった。そのうち nursing care は 22 (17%)、the care は14 (11%)、patient care は 13 (10%)、basic nursing care は 3 (2%) であった。また、care for 6 (5%)、medical care 6 (5%)、その他 home care 5、skin care 5、child care 3、comprehensive care 3、giving care 3、patient-centered care 3、terminal care 3、care of 2、care of patient 2、individualized care 2、

self-care 2、aspects care 1、caring for 1 等 67 (50%) であった。basic nursing care、nursing care、the care はそれぞれにおいて日本語の訳に共通の訳があった。nursing care 22中「看護ケア」18、「看護」4。the care 14中「ケア」12、「看護」1、「訳なし」1。basic nursing care 3中「基本的看護ケア」2、「基本的な看護ケア」1。

D. help 関連 assist 関連の訳の変化「看護の基本となるもの」(表4、表5)

1. helping の日本語の訳の変化については、「助け

表5 assist 関連の訳の変化「看護の基本となるもの」

1 assist の訳の変化 総数 (4)			2 assistance の訳の変化 総数 (6)		
1995年	1973年	1961年	1995年	1973年	1961年
援助する 2	援助する 1	手助けする 1	援助 2	援助 2	援助 2
援助 1	援助 1	援助 1	助けて 1	手を借り 1	手を借り 1
助ける 1	手助けをする 1	手助けをする 1	手助け 1	手助け 1	手助け 1
	手助け 1	手助け 1	助け 1	助け 1	助け 1
			訳なし 1	訳なし 1	訳なし 1

表6 helping・help・assist 関連の対訳の内容「看護の基本となるもの (1995年)」

		[%]	自立に向けている内容 [%]
helping	身体への行動への援助	25 [ 58]	25 [58]
	精神への行動への援助	8 [ 19]	
	その他の行動への援助	10 [ 23]	
合 計		43 [100]	
help	身体への援助・身体への行動への援助	15 [ 34]	4 [ 9]
	精神への援助・精神への行動への援助	9 [ 20]	
	レクリエーションへの行動への援助	1 [ 2]	
	その他、生活の流れを持ち続けるなどへの援助	19 [ 44]	
合 計		44 [100]	
assist 関連	身体への援助・身体への行動への援助	4 [ 29]	0
	看護婦の独自の機能への援助	3 [ 21]	
	その他、日常生活のパターンを保つなどへの援助	7 [ 50]	
合 計		14 [100]	

る」「援助する」の割合が1961年(初版) 8 (18%)、1973年35 (81%) 1995年41 (95%) と徐々に増加していた。年度によって援助を表すことばが「助けてあげる」「してあげる」から「援助する」へと変化していた。

2. help の日本語の訳の変化については、「助ける」「援助」の割合が1961年(初版) 12 (33%)、1973年20 (47%) 1995年33 (77%) と徐々に増加していた。援助を表すことばの年度による日本語の訳の変化はみられなかった。

3. assist、assistance 他のそれぞれの日本語の訳は「助ける」「援助する」であり、年度による日本語の訳の変化はみられなかった。

#### E. “helping” “help” “assist” 関連の対訳の内容「看護の基本となるもの」(表6)

1. helping の対訳の内容は、呼吸・姿勢などの身体への行動への援助が25 (58%)、意思伝達・気持ちの表出などの精神への行動への援助が8 (19%)、職業・レクリエーションなどの行動への援助が10 (23%) であった。これらの内、患者の意思を尊重し自立に向

けて援助している内容は25 (58%) であった。

2. help の対訳の内容は、皮膚の手当・事故防止などの身体への援助と身体への行動への援助が15 (34%)、望みや欲求不満などの情動の伝達・気持ちよさの提供などの精神への援助と精神への行動への援助が9 (20%)、レクリエーションへの行動への援助が1 (2%)、その他の生活の流れを持ち続けるなどへの援助が19 (44%) であった。これらの内、患者の意思を尊重し自立に向けて援助している内容は4 (9%) であった。

3. assist 関連の対訳の内容は、清潔・排泄などの身体への援助と身体への行動への援助が4 (29%)、看護婦の独自の機能への援助が3 (21%)、その他の日常生活のパターンを保つなどへの援助が7 (50%) であった。“helping” “help” “assist” 関連の対訳の内容において自立に向けている内容は、helping は58%、help は9%であり、assist 関連には見られなかった。

## V. 考 察

看護の専門性を表すことばとして援助ということばが多く用いられている。しかし時として同じ看護行為をケアということもある。しかしヴァージニア・ヘンダーソンの著書において、援助 (help 関連・assist 関連) と看護ケアとに、たとえば看護ケアを援助と訳すといった日本語の訳の混同は見られなかった。これらのことから援助は看護ケアと同一ではないことが推測される。しかし今回は、日本語の訳の相違の調査に留まっているため援助と看護ケアとの間の看護行為の意味内容に明らかな相違があるとはいえない。したがって今回、看護における援助について援助と看護ケアの比較から考えることは難しいと思われる。以下、援助を表す help 関連、assist 関連の用い方について考察をすすめる。

### A. 援助を表す help 関連

「看護の基本となるもの」「看護論」の中の援助を表す単語は、help 関連が最も多く用いられており「看護の基本となるもの」help 総数106 (help 44、helping 43、他)、「看護論」help 総数124 (help 69、helping 29、他) 共に80%を超えていた。だが英語では、“help” “assist” “aid” それぞれは意味に共通性があるが用い方が異なる。そのためヘンダーソンの「看護の基本となるもの」「看護論」の中の援助は help 関連であるというより援助をいくつかの種類に分けて考えていると思われる。

一方、「看護の基本となるもの」「看護論」共に、“help” “assist” “aid” はそれぞれにおいて、日本語の訳が類似していた。このことは日本語の訳からみると、“help” “assist” “aid” それぞれにおける「援助行為」の違いは見いだせなかったといえる。

日本語の援助を表すことばに対応する英語の語彙は、help だけでなく “assist” “aid” や “support” がある。私たちは、無限に連続し流動する現実世界を有限個の言語記号によって統一化しながら、認識活動を行っている。言語記号に現実世界の特定の対象物を1対1の対応で担わせているのではないため言語と指示物との間には曖昧性がある。

ヘンダーソンの援助を知るためには、日本語の訳の違いからだけでなく「看護の基本となるもの」「看護論」の中の援助を表す語彙 “help” “assist” “aid” “support” の用例が、どのような意味で使われているかを調査する必要がある。

### B. “helping” “help” の日本語の訳の変化

1. ヘンダーソンの基本的看護の構成要素14項目の「助ける (1995年)」、たとえば1. 患者の呼吸を助ける、2. 患者の飲食を助ける、……などの「助ける」には、helping が使われていた。また helping 43中で基本的看護の構成要素以外で用いられていたのは3であった。表1の helping の訳の変化をみると、年度によって援助を表すことばが、「助けてあげる」「してあげる」から「助ける」「援助する」の割合が1961年(初版)18%、1973年81%、1995年95%と徐々に増加していた。

これは患者と看護師関係が、やってあげる性質から患者の意思を尊重する性質へと変化していると考えられる。また対訳されたものからも、患者の自立に向けた内容に使用されているものが多い。これは、患者ができない行動に看護の働きかけが存在するものと考えられた。

2. help の日本語の訳の変化 (表2) については、「助ける」「援助」の割合が1961年(初版)33%、1973年47%、1995年77%と徐々に増加していた。これは helping の訳の変化と同様の傾向であった。ヘンダーソンの基本的看護の構成要素14項目の内容をさす help は、help 中19、また自立を促す help は3であった。表2の help の日本語の訳の変化をみると、援助を表すことば「援助」「手助け」「助ける」「手をかしている」などの年度による変化はみられなかった。これは help の訳の変化からは、患者と看護師関係が、やってあげる性質から患者の意思を尊重する性質へと変化したとは言えないことがわかる。

### C. 援助と自立

helping、help、assist は身体や精神の行動への援助を表しており、自立に向けている内容は、helping 58%、help 9%であり assist は見出せなかった。ヘンダーソンの援助を表す単語には、help 関連と assist 関連が用いられていた。ヘンダーソンは援助をいくつかの種類に分けていることが考えられる。また各援助において自立に向けている内容の割合に差が認められたことより、援助の分類の視点として自立の程度があると説明することができる。しかし assist 関連においては、自立に向けている内容が見出せなかった。これは先行研究の help、assist 共に自立に向けた援助である4) という結果とは違った結果であるが一見解釈できる。しかしながら、患者と看護者の関係の中での患者

の自立への援助は、ほとんど全く依存した状態からほとんど全く自立した状態があることから、assist 関連において自立に向けた内容が見出せなかった理由として、患者がほとんど全く依存した状態であることが考えられる。このときの患者は、健康と健康の回復に役立つ諸活動を看護者の援助なしでは行えなくなっている人であり、看護者は患者の代行をする人となると言える。

## VI. 結 論

援助を表すことば help・helping の用例はヴァージニア・ヘンダーソンの基本的看護の構成要素14項目に多く使われていた (helping 43中40、help 44中19)。ヘンダーソンの看護における援助(「看護の基本となるもの」の中の help 関連)とは基本的看護の構成要素14項目を表すということが考えられた。また援助を表すことば help・helping の年度による変化は、はっきりあるとはいえなかった。

「看護の基本となるもの」「看護論」の中の援助を表す単語は、help 関連が最も多く共に80%を越えていた。helping の日本語の訳の変化については「助ける」「援助する」の割合が1961年(初版)18%、1973年81%、1995年95%と徐々に増加していた。また年度によって援助を表すことばが「助けてあげる」「してあげる」から「援助する」へと変化していた。helping、help、assist は身体や精神の行動への援助を表しており、自立に向けている内容は、helping 58%、help 9%であり assist は見出せなかった。また援助 (help・assist) と care の使い方は同一ではないことが示唆された。

## VII. 本研究の限界と今後の課題

今回は、日本語の訳の相違を言語学的視点から文献検討した。そのため援助を表す語彙の用例の意味内容を調査するには至らなかった。また「看護の基本となるもの」に限定されたことが本研究の限界である。ヘンダーソンの援助を知るためには今後、日本語の訳の相違と意味内容を検討する必要がある。

本研究は北里大学大学院看護学研究科修士課程に提出した学位論文の先行研究の一部を加筆・修正したものです。

なお、本研究の内容は、第29回日本看護研究学会学

術集会 (2003年7月、大阪) にて一部を発表した。

## 引用文献

- 1) 高崎絹子：看護援助の現象学。医学書院，東京，1998，pp113-135.
- 2) 黒田裕子：看護実践における科学的方法の意味。田畑邦治、田中美恵子編。哲学 看護と人間に向かう哲学。ヌーヴェルヒロカワ，2003，pp171-182.
- 3) 古藤みどり、信田隆子・他：ヴァージニア・ヘンダーソンの援助の概念。第29回日本看護協会論文集—看護総合—。日本看護協会出版会 1998，pp91-93.
- 4) 野島良子：看護学における Terminologies の明確化に関する研究：看護における「技術」の概念をとおして：(そのII) 看護論の基本構造 (2) (Part II)。日本看護研究学会雑誌 1982，5(2)：61-71.

## 参考文献

- 1) 日本看護科学学会看護学学術用語検討委員会：日本看護科学学会看護学学術用語検討委員会報告。日本看護科学学会誌 1994，14(4)：67-75.
- 2) 岡谷恵子、島田陽子・他編：看護の共通言語を構築する 看護実践国際分類 (ICNP) / アルファバージョン，インターナショナル ナーシングレビュー 1997，20(3).
- 3) Virginia Henderson, R.N., M.A. : BASIC PRINCIPLES OF NURSING CARE. 1969, / 湯槇ます、小玉香津子訳。看護の基本となるもの。日本看護協会出版会，1961.
- 4) Virginia Henderson, R.N., M.A. : BASIC PRINCIPLES OF NURSING CARE. 1969, / 湯槇ます、小玉香津子訳。看護の基本となるもの。日本看護協会出版会，1973.
- 5) Virginia Henderson, R.N., M.A. : BASIC PRINCIPLES OF NURSING CARE. 1969, / 湯槇ます、小玉香津子訳。看護の基本となるもの。日本看護協会出版会，1985 (1973 第1刷発行).
- 6) Virginia Henderson, R.N., M.A. : BASIC PRINCIPLES OF NURSING CARE. 1969, / 湯槇ます、小玉香津子訳。看護の基本となるもの。日本看護協会出版会，1997 (1995 第1刷発行).
- 7) Virginia Henderson, R.N., M.A. : Basic Principles of Nursing Care. International Council of

- Nursing 1969.
- 8) Virginia Henderson, R.N., M.A. : Basic Principles of Nursing Care. International Council of Nursing 1997.
  - 9) Virginia Henderson, A.M., R.N. : THE NATURE OF NURSING. 1966, /湯楨ます、小玉香津子訳. 看護論. 日本看護協会出版会, 1968 (初版発行).
  - 10) Virginia Henderson, A.M., R.N. : THE NATURE OF NURSING. 1966, /湯楨ます、小玉香津子訳. 看護論. 日本看護協会出版会, 1976 (新装版初版発行).
  - 11) Virginia Henderson, A.M., R.N. : THE NATURE OF NURSING. 1966, /湯楨ます、小玉香津子訳. 看護論. 日本看護協会出版会, 1992(1983改訳版初版発行).
  - 12) Virginia Henderson, A.M., R.N. : The Nature of Nursing, The Macmillan Company, 1972.
  - 13) Virginia Henderson, AM, RN : The Nature of Nursing Reflections after 25 years. 1991, /湯楨ます、小玉香津子訳. 看護論 25年後の追記を添えて. 日本看護協会出版会, 1996 (1994 第1刷発行).
  - 14) Virginia Henderson, AM, RN : The Nature of Nursing Reflections after 25 years. The Macmillan Company, 1991.
  - 15) Virginia Henderson, Gladys Nite : Principles and Practice of Nursing SIXTH EDITION. 1978, /荒井蝶子他 監訳. 看護の原理と実際III 基本的ニードと援助. メヂカルフレンド社, 1979.